

## 特集

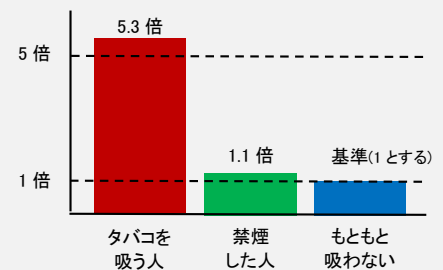
# たばこが歯にも悪いってホント？

たばこが健康に悪いことは皆さんよくご存じですよ。口腔内は毒性の強いタバコの煙に直接触れる場所。それだけに、受ける被害も大きく、その影響は多岐にわたります。口腔がん、歯周病の重症化や治療、予防の効果への悪影響、外科治療後の回復の遅れを招くほか、最近では虫歯のリスクまで指摘されるようになりました。治療や予防の効果を上げ、失う歯を減らすために、禁煙を始めてみませんか？

### ピックアップ 1 虫歯になりやすい

- 虫歯菌の悪性度が増し、歯を溶かす酸が多量に生産される。
- 虫歯菌の棲むプラークの外膜が丈夫になり、虫歯菌の作る酸の濃度が上がる。
- ヤニにプラークが吸着し、歯ブラシで取り除きにくい。
- 虫歯が大きくなりやすく歯髄(いわゆる「神経」)を治療するリスクが増える。
- 歯髄の治療をして歯の中をきれいに掃除しても、修復機能が弱っているために治療後の回復に時間がかかり痛みや違和感が続きやすい。
- 歯髄の治療の際、免疫細胞が速やかに働かないため、再発のリスクが高まる。

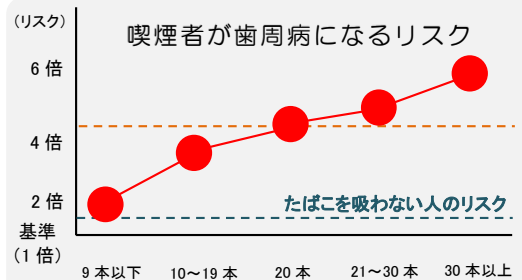
喫煙者が虫歯になるリスク



### ピックアップ 2 歯周病が重症化しやすい

- たばこは免疫力を落とすので歯周病になりやすい。
- 治療をしても回復が遅く、治りにくい。
- 治療後いったんよくなっても再発しやすい。
- 血管が収縮し血流が悪くなり、かつ歯ぐきが硬くなって肉眼的症状が出にくく病気の発見が遅れやすい。
- 歯とあごの骨を結び付ける歯根膜がたばこで傷む。
- 傷んだ歯根膜に炎症が及ぶと歯が抜けやすくなる。

喫煙者が歯周病になるリスク

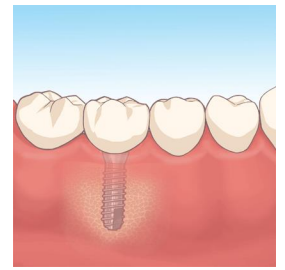


### ピックアップ 3 外科治療に不利

- 修復機能が弱ってしまうため、手術後の回復に時間がかかり、痛みや違和感が続きやすい。
- 同様に、傷口がすみやかにふさがらず細菌感染のリスクが増える。
- 抜歯後、骨が歯ぐきに覆われずドライソケットになるリスクが増える。

## ピックアップ4 インプラントに不利

- インプラントの埋入後、修復機能が働きにくく歯槽骨の反応が悪いため、インプラントが歯槽骨と強固に結合し固定するまでに時間がかかる。
- 歯槽骨の反応が遅れると肉芽組織が先に育ってインプラントと歯槽骨の間に入り込むリスクが増し、インプラント治療がうまくいかない確率が上がってしまう。
- 免疫機能や修復機能が働きにくいいため、インプラント周囲炎をおこすリスクが増す。



## ピックアップ5 粘膜への影響

- たばこの煙に含まれる発がん性物質によって、口腔ガンを発症するリスクが高くなる。
- たばこの刺激で上あごの粘膜が角化して硬く厚くなり、ニコチン性口内炎になるリスクが増す。
- 舌にある味覚センサーが働きにくくなり味の感覚が鈍くなる。
- 舌に口臭の原因となる舌苔が付きやすくなる。



理事長コラム (十八)

### 読売新聞医療欄に掲載されました

この三月一日(火)に読売新聞の医療ルネサンスストーマと生きる「シリーズ」の五名の一人として四番目に掲載されました。同紙は販売部数一千万部とされ、おそらく世界一と思われれます。全内容は次頁で読んでいただけますので、そのいきさつと他の四名の記事内容を簡単に紹介します。

記者のS氏が電話予約で来宅されたのが、二月五日の午後。五名の人選に当たっては、二〇〇四年に同じ企画がなされた際に登場されたオストメイトのKさんに全面的に協力いただいた由。今回、私をその一人に選んでいただいて光栄至極の思いでした。そして、一時間半ほどの取材と写真撮影で帰られました。

さて、最初の二十五日の紙面に登場されたのが真山亜子さん(五十七歳)。クローン病で声優を続けながら、今回、舞台俳優にもチャレンジされたことが掲載されました。二十

六、二十七日は共に匿名女性で、一人は三十五歳直腸癌、もう一人は三十九歳ヒルシユブルング病とともに晴れて結婚、出産にこぎつけられた。オストメイトであることをカミングアウトするかしないかは非常にデリケートで、特に女性であればなおさらです。そして私の次、最後の五人目に掲載されたのが柿本聡さん(三十五歳)。直腸癌で、介護士をしながら柔道教室を主宰し、二年前の長野県大会で部門別で優勝を果たされた強者つわものです。しかも担癌状態での登場に覚悟と勇気のほどを思い知らされました。

この掲載は、わたしにとって今後も癌生還者やオストメイトの方々に「元氣をお届けする」決意を新たにした大きな出来事でした。

